次第

心待くし乃燥風すゞ（下）ぶ（下）ぶ（下）此
可濃月うひくなる（下）　詞　是ハ九州
日向國の老ものゝはゞ五秋ときこ
大神宮に參らはゞなるにぞ
思ひ立てゝ　（左行上）　日子嘗のふ國乃
滿舟漕出そゞくバ室の塩路を
是ゝ見わせし（下）波乃濱路のこ

通ふ手ゆゑ群仰ぎ旅の寝覚を
ひ度乃浦関の戸ともに明ぬ
所漕り浦に美にけるとく 詞 急ひ
程小先を見るや伊勢国所漕の浦
に着てひ題一見ぎりやと思へ
彼なら寝同可像もなるなのまよ衣
ガ新嫁ひ居聖ひしまし 詞 う於

トの我渡る習ひ我一人ゆゑ居し旅
ぎぎめて其識をいとな無田方
ともなるひ後悔き殺生此
家に生種ぶんくまも新ゝ家我
うつひ古と浪出しをよづこ 詞 所
り星々海殺生りなとに思へ其
浮世のわきゆるひ程母ぞねも

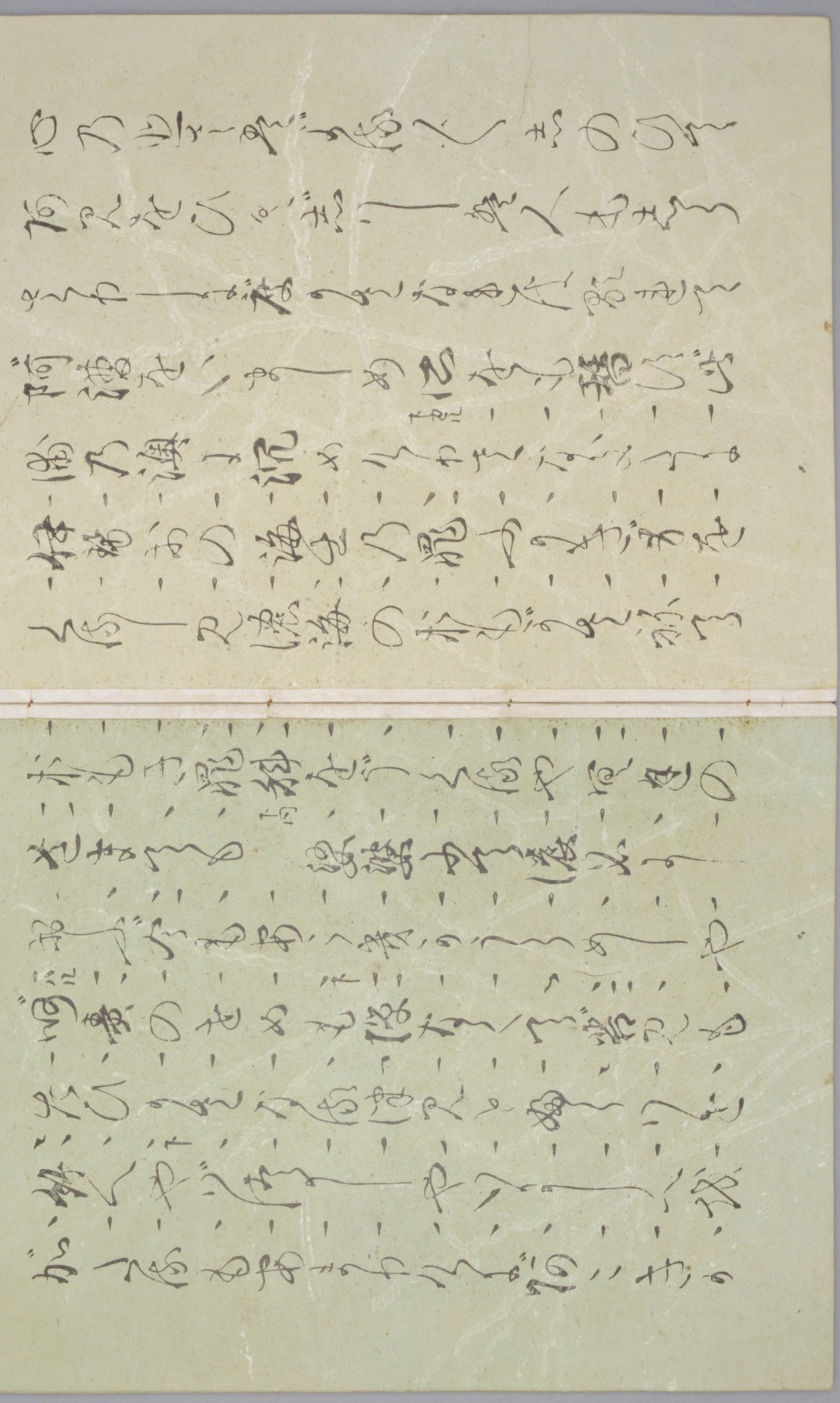
又鞆千出そへ 〽以の小兄なる
尉殿小ぐんも中へさあと漕る
〽聊之記志と申すは事
ままり 〽保静國よしわるも
此うらなは以の淡路と申し走
〽さき人氏は在あこ多り淵と
申作 〽さる義屋夜ゐ仰濱り

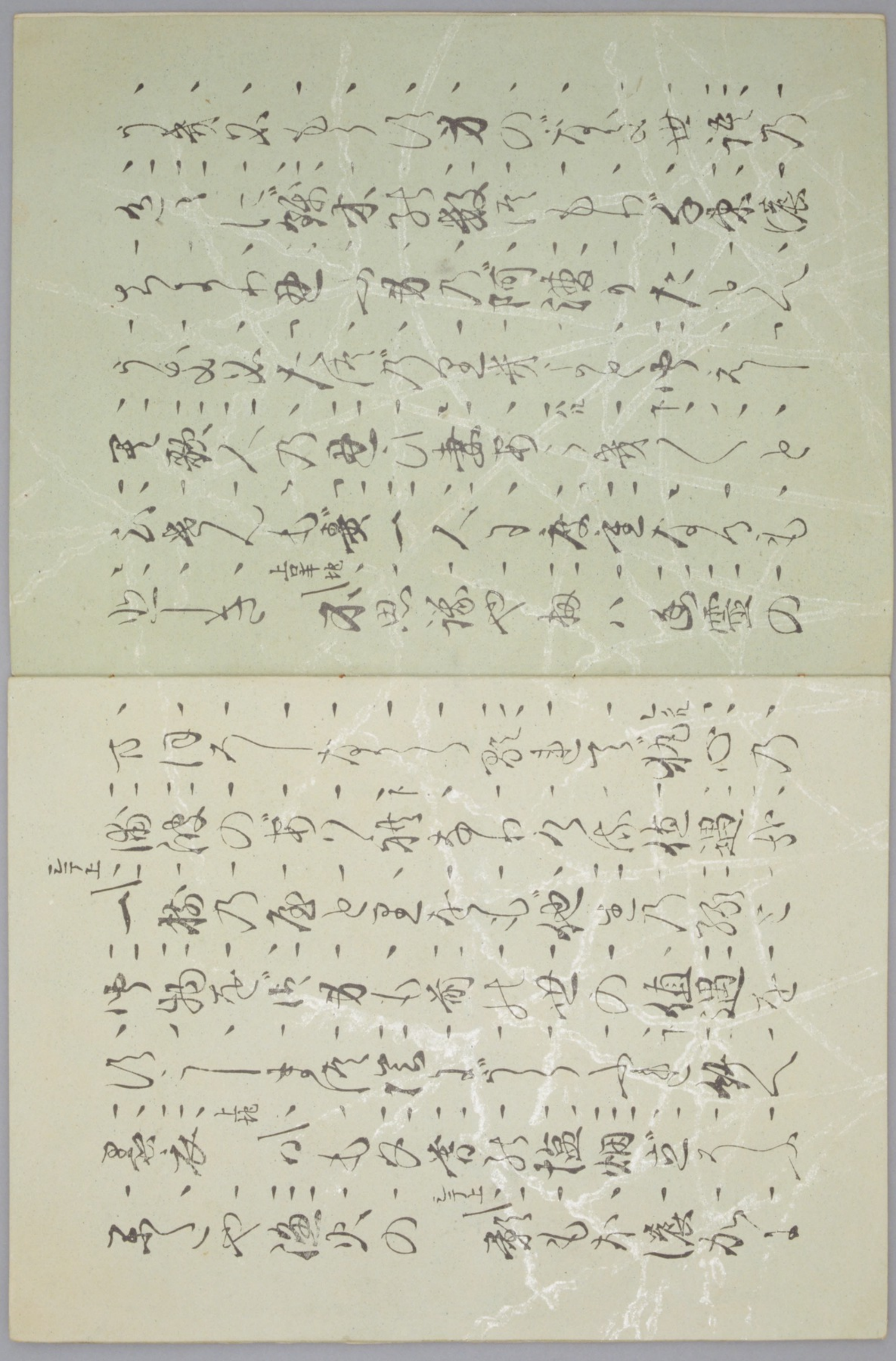
淵まくひろうや古米野小
いさ袁海面に光の浦よ引調も
夜空なま後歌まにりるが様よ
淡路浦なるやは念面なやは
〽明る庵さし流旅人や能乃和哥
なれいなしの舞まうろんへ姿
ば六帖の哥にゟつまも何濃り

浦より引網も度重なる宇治(?)や
あまが棹小楫かし塩人なま度
ぞもこゝ汲な(?)る伊勢木のたゞよ流
れ寄め哉のさそき男なまいとて
い庭しみ針ひん風よ　きつめ
必仁追詠小別了達踏(?)心なまめ
塩乃なくも能夕烟　男哉たく

へ美よんあつまとも　ひめ宮
仁よゝ家浪乃　寄もかりふう
帆好へ　鬼の見も弥小よわ家
かりるとりわぐ数波乃あり濱
浦風もご小夜以を孫演荻の
哉戎替ろ中路へ藻塩焼烟も
といしにろわ月みせとそ許

海士渡志乃をまでもゆかりある神中
蜑武が島小よりわくる人なかに
いりの漏る哀　此浦を阿漕の
うらと申いはれ御物語候へ
抑此浦をあこぎか浦と
申事は伊勢太神宮御降臨より
このかた御膳調進乃網をひく
所也されば神乃誓ひによるにや
海魚おほく此所に多
く寄りて浮世をわたる蜑の業
蜑人此所を忍びなどわたを望むに
り色々神前のなれば殺生によるて
堅くいましめて是をゆるさぬ
に阿漕と云蜑人業よりの世





みえ初て海辺も晴るゝ村雨小
ほりやまくわ落あ入ル一閑
だまかへしくうぬ流せと
忍しよわも係小さや小舟海
たゝ閑くりきさく丸てしき浪も
うちうひ漁のとも消ゆ移て
ごゑ又もいまも聲さんふあり濃

波よせしりゐかへす語りゝも
閑くうかりしくわく川を
尋り夜数ゝ濃ゞ江の中も
一葉乃めなる舟ひもとめて
幾許かの玉なうたゞ謡ひわたる
くうかうしく盤乃うる
濱にせし出濃丑秋のしし聲音を

きうなりよ我まいとりし
と宵ハ浪あまりて漁船の影の
あはれをもしらぬよなふ
詞
げに深きなるとも夕月なれどもひ
よる塩屋の内へ塩乃煙乃我の庵
人目忍ぶのひくにひく網の
濱にも磯にも舟ハ見えしいざし
三つのみならであこ漕海がうら
塩木こるともさて我心乃
綱をの緒伊勢をの海清き渚の
たまくもいふうたよわ
清乃辞聞中は哉とももなぞ
心よりたゝ清見をのみもちう
あミ漁なる身のへの人津す疑以

上同

なほうや惹あはやうしつゝ屋
すしゆはすくほうの爰ゞく
みよや国果の回まくほ火車に
葉は其数くほしめて目ゆ前落
地獄も味なわきまだ詠し蓑
きしきや おしふ成うゝめし
明ふし通蓑ゞく婆婆のなを

えしあゝ我の比浦の猶執心蓑
心ひく網乃手なれしうろ身は
とそのんはなる悪魚麦地と成て
我蓑火我蓑乃水に方をいふめ
目ゆをなた是ハまきぬ以なる
焦熱大焦熱乃煖烟や暑立居に
ひまもなき宜是のをめもだひ

まきなる阿波のうらる飛緋せ
たすきくるとこのんや旅人よぶひ客
竹へやよひ人ぺそぞまたかの母
のよりわみ渡の庵小へにゐるそ